平成28年度　メディカルサポート部　バスケットボール競技
メディカルサポート活動報告

早春の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととご拝察申し上げます。平成28年度メディカルサポートの際は、多くの先生方に御参加いただき誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

平成28年度の群馬県高校バスケットボールのメディカルサポート活動について、以下にご報告させていただきます。

１．メディカルサポート概要

１）参加大会

下記5大会（内4大会は県内大会、内1大会は関東大会）全190試合に参加した。

第70回関東高等学校バスケットボール選手権大会県予選会（県総体）　：2日間32試合
第70回関東女子高等学校バスケットボール選手権大会（関東女子総体）　：3日間30試合
第69回全国高等学校総合体育大会県予選会（インターハイ）　：2日間30試合
第47回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会県予選会（選抜大会）　：3日間38試合
第27回関東高等学校バスケットボール新人大会県予選会（新人大会）　：4日間60試合

２）サポート内容

各大会では、会場の一角にメディカルサポートブースを設営し、試合前後の依頼に対応した。また、試合中のサポートとしてスタッフがコート脇に待機し、試合中の傷害に対応した。

３）参加スタッフ数

県内大会ではメインスタッフは延べ36名（実数13名）、アシスタントスタッフは延べ49名（実数19名）であった（表1)。関東女子総体では、メインスタッフは延べ9名(実数6名)、アシスタントスタッフは延べ6名（実数6名）であった（表2)。

４）対応件数

県内大会では選手の対応件数は男子30件、女子26件、計56件であった（表1)。関東女子総体では女子のみ計9件であった（表2)。

表１　県内大会メディカルサポート概要（選手のみ）

	日数（日）	試合数（試合）	スタッフ数（名）メイン / アシスタント	対応件数（件）	対応回数（回）
県総体	2	32	7 / 8	5	10
インターハイ	3	30	9 / 12	14	37
選抜大会	3	38	8 / 13	20	34
新人大会	4	60	12 / 16	17	37
計	11	160	45 / 59	56	118

表２　関東女子総体メディカルサポート概要（選手のみ）

	日数（日）	試合数（試合）	スタッフ数（名）メイン / アシスタント	対応件数（件）	対応回数（回）
関東女子総体	3	30	9 / 6	9	23

５）対応回数

県内大会における選手の対応回数は計118回であった（表1)。また、関東女子総体における選手の対応回数は23回であった（表2)。

２．メディカルサポートの対応内容（選手のみ）

県内大会における対応内容の内訳は、テーピング34回、ストレッチ25回、アイシング23回、止血処置3回、徒手的療法8回、傷害確認・対処方法の指導24回、その他1回であった（表3)。また、関東女子総体における対応内容の内訳は、テーピング6回、ストレッチ2回、アイシング9回、徒手的療法8回、傷害確認・対処方法の指導4回であった（表4)。

表３　県内大会の対応内容

	テーピング	ストレッチ	アイシング	止血処置	徒手的療法	(A)	その他	計
県総体	3	4	2	-	-	1	-	10
インターハイ	11	4	11	1	2	8	-	37
選抜大会	10	6	7	1	1	8	1	34
新人大会	10	11	3	1	5	7	-	37
計（回）	34	25	23	3	8	24	1	118

(A)：傷害確認・対処方法の指導

表４　関東女子総体の対応内容

	テーピング	ストレッチ	アイシング	徒手的療法	(A)	計
県総体	6	2	9	2	4	23

(A)：傷害確認・対処方法の指導

３．傷害内容と傷害部位（選手のみ）

県内大会では、関節構成体損傷が13件、筋痙攣・筋腱損傷・打撲がそれぞれ12件と多くみられた。特に多いものとしては、足関節の関節構成体損傷が9件、下腿の筋痙攣が7件、大腿部の筋痙攣が5件であった（表5)。関東女子総体では下肢の関節構成体損傷・筋痙攣がそれぞれ3件と多くみられた。また、試合中の頭部外傷による脳震盪が1件みられた（表6）

表 5　県内大会の傷害部位別件数

	顔面	頚部	胸腹部	肘関節	手関節	手指	腰部	股関節	大腿部	膝関節	下腿	足関節	足部	計
関節構成体損傷	-	-	-	1	1	1	-	-	-	1	-	9	-	13
筋痙攣	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	7	-	-	12
筋・腱損傷	-	-	-	1	-	-	3	1	2	-	4	-	1	12
打撲	1	1	1	1	-	-	2	-	3	1	2	-	-	12
出血	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	3
骨折	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
脱臼	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
判断不能	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
その他	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
計	2	1	2	3	2	3	5	1	10	4	13	9	1	56

表 6　関東女子総体の傷害部位別件数

	頭部	膝関節	下腿部	足関節	足部	計
筋痙攣	-	1	2	-	-	3
関節構成体損傷	-	1	-	2	-	3
打撲	-	-	-	-	1	1
脳震盪	1	-	-	-	-	1
筋・腱損傷	-	-	-	1	-	1
計	1	2	2	3	1	9

４．勉強会

前年度より継続し、各大会前に勉強会を開催した。内容として、テーピングや脳震盪の対応などスポーツ現場に即した実践的な知識や対応について学んでもらうことや、メディカルサポートだけでなくアスレティックリハビリテーションについても興味を持ってもらうことを目的に開催した。

１）県総体前勉強会

【日時】平成 28 年 4 月 28 日（水）19 時 30 分～21 時 30 分

【会場】高崎健康福祉大学 3 号館 1 階　運動学実習室

【内容】バスケットボールメディカルサポート概要、足関節捻挫の病態とリハビリテーション、懇親会

【受講料】200 円　　【参加人数】25 名　　【スタッフ】奥井、大河原、江原、小林、野中、金城

【講師】大河原和也（上牧温泉病院）、新井法慶（東前橋整形外科）

２）インターハイ前勉強会
【日時】平成 28 年 6 月 10 日（水）19 時 30 分～21 時 30 分
【会場】高崎健康福祉大学 3 号館 1 階　運動学実習室
【内容】県総体・関東総体のメディカルサポートまとめ、足関節捻挫のテーピング（実技)、懇親会
【受講料】1000 円　　【参加人数】15 名　　【スタッフ】奥井、大河原、江原、小林、野中、金城
【講師】金城拓人（上牧温泉病院)、大河原和也（上牧温泉病院）

３）ウインターカップ前勉強会
【日時】平成 28 年 10 月 10 日（月）10 時 00 分～13 時 00 分
【会場】高崎健康福祉大学　第二体育館
【内容】脳震盪について、膝関節（ACL 損傷予防）のテーピング（実技)、テーピングを巻いた状態での試合、懇親会
【受講料】2100 円　　【参加人数】14 名　　【スタッフ】奥井、大河原、江原、小林、野中、金城
【講師】奥井友香（あさくら診療所）

４）新人大会前勉強会
【日時】平成 29 年 1 月 6 日（金）19 時 30 分～21 時 30 分
【会場】高崎健康福祉大学 3 号館 1 階　運動学実習室
【内容】バスケットボール選手へのアスレティックリハビリテーションの講義、シミュレーション実習
【受講料】200 円　　【参加人数】10 名　　【スタッフ】奥井、大河原、江原、小林、野中、金城
【講師】金城拓人（上牧温泉病院)、小林智忠（上牧温泉病院）

５．まとめ

平成 28 年度の群馬県高校バスケットボールメディカルサポートは、昨年度より継続して各大会での 3・4 回戦以降のサポート活動を実施した。また本年度は関東女子総体が群馬県で開催されたため、救護としてサポート活動を実施した。県内大会では 3・4 回戦の時点ではトレーナーが帯同していないチームが多く、またベスト 4 以上のチームでも男女ともにトレーナーが帯同していないチームが存在した。そのため、バスケメディカルサポートとしては試合前の選手のコンディショニングや、試合中に発生した傷害への対応を実施するために、来年度も継続して 3・4 回戦以降から決勝までの試合で可能な限りサポート活動を実施していきたい。

また昨年度より継続した取り組みとして、脳震盪が発生した場合はバスケットボール班で作成したフローチャート表や対応シート表を用いて対応を行った点が挙げられる。日本バスケットボール協会のホームページ上で頭部外傷に対する指針が掲載されるなど、脳震盪に対する注目度や対応の重要性は高まってきていると考える。バスケットボール競技において脳震盪はセカンドインパクト症候群などの脳損傷に繋がるリスクがあるため、来年度以降もフローチャート表などを用いることでリスク管理をしっかりと行っていきたい。

本年度の勉強会では、対応数の多い膝関節・足関節へのテーピング実技練習の他に、脳震盪といった発

生頻度は少ないが試合中に起こりうる傷害についての講義も実施した。また新人大会前ではバスケットボール選手に対するアスレティックリハビリテーションのシミュレーションを実施した。来年度も定期的に勉強会を開催し、新しい知見の紹介や、現場で起こり得る傷害に対する知識・対処方法などについてスタッフ間で情報・技術の共有を図っていきたい。

来年度も今年度同様、県内大会における 3 回戦以降のサポート活動を実施するとともに、各大会前に勉強会を開催し、更なるサポートの充実を図っていく必要があると考える。また、脳震盪に関しても勉強会やサポート現場などを利用し、スタッフに対して継続して知識や対応方法の周知を図りたいと考える。

群馬スポーツリハビリテーション研究会
メディカルサポート部バスケットボール競技委員会
奥井、大河原、江原、小林、野中、金城